

## 令和元年度全国学力・学習状況調査の分析および考察についてのお知らせ

晩秋の候、皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。また、日頃より本校の教育活動にご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、6年生を対象に4月に実施されました全国学力・学習状況調査の結果より課題を分析・考察したものをもとに、今後の本校の教育活動についてお知らせ致します。

〈調査結果〉 全国平均のポイントよりも 高い項目○ 低い項目△

### 国語

- 公衆電話について調べたことを【報告する文章】で、2つの資料がどのような目的で用いているか、適切なものを選択する。
- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。(記述式)
- 文の中で正しく漢字を使う。(調査のたいしょう、かんしんをもってもらいたい)
- 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す。
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にして読んだり書いたりする。(記述式)
- 梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する。正答率100%。
- 昼職人への【インタビューの様子】の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する。
- ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる。(習うより慣れよ)
- △文の中で正しく漢字を使う。(友達にかぎらず)
- △昼職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く。ただし、無回答率は全国14.2%に対し、3.2%と低い。

### 算数

- 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する。
- 加法と乗法の混同した整数と小数の計算をする。 $(6 + 0.5 \times 2)$
- $350 - 97$ について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く。
- 示された計算の方法を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する。
- 示された計算のしかたを解釈し、かける数や割る数を選び計算しやすい式にして計算する。 $(600 \div 15)$
- 示された除法 $(1800 \div 6)$ の式の意味を理解し、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ。
- 示された場面(何秒後にゴンドラに乗ることができるのか)において、複数の数量から必要な数量を選び、求める式を書く。
- 場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、残り7ポール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内に商品を買うためにレジに着くことができるか判断する。
- △長方形を直線で切ってできた図形の中から、台形を選ぶ。
- △二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶ。
- △2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く。
- △二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだ理由を書く。
- △目的に伴って変わる二つの数量を見だし、調べる必要のある事柄を選ぶ。

## 質問紙調査

- 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている児童は、全国平均を18ポイント上回っている。
- 将来の夢や目標を持っていると答えた児童の中で、「当てはまる」児童は全国平均とほぼ同じであるが、「どちらかといえば、当てはまる」を合わせると7ポイント上回っている。
- 学級みんなで話し合っただけで決めたことに協力して取り組み、うれしかったことがある児童は全国平均を12ポイント上回っている。
- 学級のきまりを守っている児童は、全国平均を21ポイント上回っている。
- 人が困っているときは、進んで助ける児童は、全国平均を21ポイント上回っている。
- 学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、読書をしているかの質問では、2時間以上の児童は全校平均とほぼ同じであったが、1時間以上2時間未満の児童は全国平均より11ポイント上回っている。また、読書が好きな児童は、全国平均を11ポイント上回っている。
- 今住んでいる地域の行事に参加している児童は、8割を超えていて、全国平均を47ポイント上回っている。
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる児童は、全体の5割おり、全国平均を20ポイント上回っている。
- 国語の勉強が好きな児童とどちらかといえば好きな児童を合わせると7割を超えており、全国平均より10ポイント上回っている。また、国語の授業の内容がよく分かる児童とどちらかといえば分かる児童を合わせると9割近くなり、全国平均を2ポイント上回っている。
- 算数の勉強が好きな児童とどちらかといえば好きな児童を合わせると全国平均とほぼ同じである。また、算数の授業の内容がよく分かる児童とどちらかといえば分かる児童を合わせると9割近くなり、全国平均を4ポイント上回っている。
- △自分にはよいところがあると答えた児童の中で、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた児童は8割を超えており、全国平均より3ポイント上回っているが「当てはまる」と答えた児童は10ポイント下回っている。
- △昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校図書館や地域の図書館にどれくらい行きますかの質問では、週に1回以上行く児童は、全国平均より4ポイント下回っている。
- △日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思っている児童は、全国平均より8ポイント下回っており、知ってもらわなくてもよいと思っている児童は、全国平均を11ポイント上回っている。
- △5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思っている児童は、全国平均を9ポイント下回っている。

## 以上を踏まえた成果と今後学校として、力を入れたいこと

### 【成果】

- 研究テーマを『対話的な活動によって、学び合う楽しさを実感できる授業作り』とし、学習活動の中で対話的な活動を取り入れ、授業改善を図ってきたことで、正答率の低い傾向にある記述式問題において、ほとんどの問題で全国平均より高い正答率となった。
- 授業だけでなく、学級での話し合いも大切にしていることで、自分が努力すべきことを主体的に決めて取り組めるようになってきた。将来の夢や目標ももてるようになってきた。
- 家庭で学校での出来事について話をしている児童が多いことや家庭で読書をしている児童が増えていることは、児童会活動の取組やPTA活動の取組の成果ができてきていると考えられる。

### 【今後学校として力を入れたいこと】

- ・『対話的な活動によって、学び合う楽しさを実感できる授業作り』の達成に向け、算数科だけでなく、他の教科においても対話的な活動を取り入れた指導を意図的・計画的に実施する。
- ・「どうして○○になったの？」など、根拠を問う問い返しを行う。答えを出すまでに考えたことの発言の場（言葉・文章・図・式・モデル）も必ず設定し、実践する。
- ・自分の学習の伸びを自覚させるために、授業の最後に必ず振り返りを行うことと振り返りの内容の工夫と改善を行う。
- ・自分の住んでいるふるさとを、自信をもって多くの人に知ってもらいたいと思うことができるよう、総合的な学習の時間において、さらに地域の人材を生かした学習を進めるとともに、ICTを活用した発表方法を工夫する。
- ・「自分にはよいところがある」と堂々と表現することができるように、学校・家庭・地域が一体となって子どもを褒めて育てる。
- ・基礎的・基本的な知識技能の定着を図るための朝学習の継続と、家庭での学習や読書習慣を身に付けるための取組を見直す。